

## 第110回「村長とのふれあいトーク」当日のやりとりコメント

### 【1】 広域避難計画について

被ばく低減係数と屋内退避の効果について。自分が東日本大震災後に東海村内や福島で測定した放射線量は、指針を基に国が計算した値より大きい。また、国やJAEAが評価した値などの資料も本日持参した。これら様々な結果を踏まえると、本村では屋内退避を行っても外部被ばくや内部被ばくの影響が大きいと考えられる。原子力災害時には早期に広域避難できない方は屋内退避を行うことになるが、その方たちへの影響を理解していただきたい。

#### ⇒【村長コメント】

資料を持ち帰り読ませていただく。ご意見として伺う。

### 【2】 娘の不登校に関する学校問題について

いじめが原因で不登校になった場合、いじめをした生徒よりもペナルティが大きい。登校できなくなるのも、受験の際に出席日数で不利になるのもいじめを受けた生徒で、いじめをした生徒は通常通り登校している。いじめをした生徒にペナルティ（例えば停学処分等）を科すのが難しいことは分かっているが、何とかならないのか。不公平だと感じている。問題が解決せず、自分の待っている回答がなかなかこない。

#### ⇒【村長コメント】

行政としてのいじめへの対応は、まず事実確認をすることが大切である。子どもたちは無自覚に行動している場合もあるし、家庭と学校で違うこともある。状況をしっかり把握した上で対策を講じる必要があるので、解決には時間を要してしまう。

まずは、受験の際に出席日数が不利にならないような対応ができないか、担当課に確認の上、連絡する。

#### ⇒【指導室コメント】

指導室から保護者に連絡を入れ状況等について確認するとともに、安心して入学試験に臨めるよう保護者の気持ちに寄り添うようにしました。本人が安心して入学試験に臨むことができるような関わりや配慮等について、学校に助言しました。

### 【3】 子どもの小学校について

近隣トラブルが原因で、子どもの小学校入学先を学区外にしたいと思い、役場担当課に申請をした。しかし、申請した内容では学区外の許可はできないと断られてしまった。議員さんを通して、再度相談をしたが、学区外入学の事例がないこともあり、回答は変わらなかった。

学区内の学校に入学させるのは親として不安。何かあってからでは遅いので、対応してもらえないか。学童の申請もあるので、なるべく早く決めたい。

#### ⇒【村長コメント】

小規模特認校である照沼小学校であれば、村内どこからでも通学できるので申請は可能である。その他の学校となると、転居に伴い、転居前の学区に通学することは可能だが、その他の理由となると現状は難しい。

担当課に確認の上、連絡する。

#### ⇒【学校教育課コメント】

村立小中学校は、住所地によって決められている指定学校に就学することが原則です。しかしな

がら、指定学校以外の学校に就学すべき事由がある場合には、前例の有無にかかわらず、個別に事情を確認させていただき、「東海村児童生徒の就学に関する規則」に規定されている基準に照らし合わせた上で、許可・不許可の判断をしているところです。

御相談をいただいた今回のケースにつきましても、詳しい事情を確認させていただき、教育委員会において何度も協議を続けてきたところですが、指定学校を変更する事由に該当すると判断できるものではありませんでした。そのため、私立小学校への就学にあたっては、現状では、指定学校又は小規模特認校である照沼小学校のいずれかを選択していただくこととなりますので、御理解くださるようお願いいたします。

#### 【4】 特筆すべき事項なし

#### 【5】 障がい者について

隣人の嫌がらせにより精神疾患となり、仕事に行けなくなった。その後、村内に転居してきた。自立支援の手帳を所持しており、障害年金を受けているが少額である。体調を崩し就労移行支援にも行けなくなり、生活に困り、生活保護を受けるようになったが、生活が大変である。数年前に村の障がい者向けの様々な助成制度が廃止された。子育ての支援も大切であるが、障がい者の支援も行してほしい。本当は自立し、自分にあった仕事をして生活したい。

また、デマンドタクシーがあり助かっているが、イオン前の待合の椅子が撤去されて困っている高齢者を見たので、高齢者や障がい者が使いやすいようになってほしい。

##### ⇒【村長コメント】

障がい者向け各種助成の廃止については障がい者の団体からもご意見をいただいております、代わりに何ができるかは継続して考えていきたい。また、少しずつ体調が回復し就労につながるができるように村としても支援をしていきたい。相談先としては、役所はもちろんだが、地域の民生委員は障がい者や子どもを持つ世帯の相談も受け、役所に繋いでくれるので、民生委員に相談してもらっても良いと思う。

デマンドタクシーは運行の仕方を効率化したいと考えている。また移動支援策としては、タクシー利用料金の助成制度について、今年度から対象者や使用できる用途の拡充を行ったところである。

#### 【6】 村について知りたい

東海村に転居を考えている。住みやすさについての PR が聞きたい。住民からは交通の便が良くないという意見もあるようだが、どのように考えているか。今後の取組みについて、力を入れることは何か、話を伺いたい。

##### ⇒【村長コメント】

生活のしやすさが良いところだと考える。日用品は村内で買い物できるし、病院や入院施設、クリニックも複数あるので、日常生活において困ることはない。村外への外出には、スマートインターや東海駅を利用することができ、移動もしやすい。

また、神社やお寺などの歴史的景観物や J-PARC などの研究施設等、様々な施設があるのも魅力のひとつではないかと思う。

交通の便について、歴代の村長が力を入れていたこともあり、インフラ整備は進み、車を運転する方にとっては良い環境だと思う。一方で、車を運転できない方にとっては、足りていない部分もあると思う。現在、デマンドタクシー6台と路線バスの運行があるが、十分ではない。安全性を確保しつつ、新しいものの導入が必要であると考えている。具体的には、デマンド運行に関する AI の導入やライドシェアなどが挙げられる。交通に関する事業については、地域公共交通会議で意見交換をしている。

今後の取組みについては、若い世代や子育て世代に選んでもらえる街づくりをしたいと考えている。住民からは住み続けたいと思われる、村外の人からは転入したいと思われる街づくりをしたい。転入者向けに、家が建てられる場所の確保も進めなければならない。将来的に土地利用の緩和を行い、転入しやすいようにと考えている。

## 【7】 原子力関係事業所と地域住民との共存について

以前住んでいた日立市では事業所が企業努力により地域住民と良好な関係を築いていた。日立製作所や旧日立鉱山では病院・売店・会館などを建設し、地域住民の利用を可能とするなど、地域や住民に貢献している。一方で村内の原子力関係事業所はそういったものが見えず、火災等の事故を繰り返しているため、住民理解が得られないと感じている。

また、事故が続いていることに関し、村からペナルティはできないのか。

### ⇒【村長コメント】

日立製作所の病院は3次救急までやっており、民間であるが公立のレベルである。茨城県は県立の病院が少ないのでとても助かっていると思う。また原電は電気の小売事業者でないことが住民にとって距離が遠く感じてしまう要因かもしれない。地域に理解してもらい取り組みも必要だが、まずは安全が第一である。一般の事業者として防火対策に問題がある事業者が原子力を扱うとなると住民の信頼は得にくい。組織としてのマネジメントが問われていると思う。

村の指導権限にも限りがあるため、ペナルティを課すことは難しい。今後どういう対応をするのか、考え方や実行体制を確認していく必要がある。

## 【8】 小学校の教員不足について

子どもの小学校では以前は算数の時間、主となる先生の他に補助の先生が1名いたが、いなくなった。教員が見つからないという話を聞くが、募集の仕方を見直せば良いのではないか。定年退職後の先生は通常勤務では応募がないだろうから、週3日勤務の人を2人雇うなど働き方を柔軟にして応募しやすいように工夫することで人が集まると思う。

### ⇒【村長コメント】

先生が減った理由は、もしかしたら特別な配置が無くなったり、講師が見つからないことが理由かもしれない。応募しやすくするという趣旨はわかるが、2人で1人分をカバーすることについて教育現場にそれがなじむのか、うまく回るのかという問題があるとは思う。ご意見として伺う。